

日刊 勤労千葉

83. 11. 16

No. 1494

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

「三里塚」「国鉄」を基軸に、中曽根と対決する 木更津支部定期大会

◆◆◆

木更津支部第六回定期大会が、十一月八日、機関区講習室において延べ四六名の組合員を集めるなかで開催されました。

◆◆◆

中曽根と対決し勝ちぬく体制を築こう
—— 斉藤支部長あいさつ ——

大会は議長に乗務員分科の永嶋代議員を選出して進められ、あいさつにたった斉藤支部長より、「新中野委員長のもと、『三里塚』『国鉄』を基軸に闘っていく。今日、戦争前夜の情勢のもと、日帝・中曽根は『戦後史の総決算をする』と言明し、軍拡と憲法改悪に向け、労働者・人民に真つ向から挑戦してきている。とりわけ第二臨調の目玉として、国鉄労働運動解体に全力をあげている。この間『職場と仕事を守る』と称して、政府・当局に屈服し、その尖兵になりさがっている労働『本部』革マルを一扫し、『59・2ダイ改』をはじめとする諸攻撃を職場生産点から粉碎し、闘える体制組織の強化をかちとるため討論を深め、大会を成功させよう」とのあいさつがありました。

活発な討論で闘う意志統一

続いて、来賓の辻田衆議員候補、中江顧問、中野委員長のあいさつを受けました。その後、経過報告、決算報告、八三年度方針案、予算案が執行部より提案され、質疑討論に入りました。討論は主に、①「59・2ダイ改」減車運転について、

支部通信員・発



あいさつにたつ 斉藤支部長

くっきりとあばき出された 勤労「本部」革マルの卑劣・不正義

中江顧問 第16回 公判

十一月七日、「中江顧問退職金支払請求訴訟」第十六回公判が、東京地裁民事十一部で開催され、中江顧問の原告本人尋問が行われました。
一九七九年四月、当時勤労本部の副委員長の役職にあつた中江氏が、勤労「本部」革マル反動分子による目にあまる組織のセクト的私物化・規約規則の無視・路線的反動化と引きまわし、とりわけ勤労千葉に対する明らかに誤った統制処分組織破壊攻撃の数々に抗議し、自らの正義の信念を貫くために、勤労本部役員を辞任し退職するに

至ったことは、日本の労働界に大きな衝撃を与え、注目されました。これにうちのめされ焦つた勤労「本部」革マル反動分子は、恥も外聞もなげすて、「中江は裏切者。だから退職金は払わない」という、誰がみても理不尽・不当・不法な難くせをつけ、今日に至るも、退職金を支払わない、ということに対して、おこされたのが、この訴訟であり、毎回、「本部」革マル反動分子の卑劣さ、不正義性があばき出されてきています。
この日の法廷で中江顧問は、副委員